

PTA会報  
NO 28

# さくら



編集・発行 2020年10月7日  
神河中学校 PTA文化・研修部

## 第10回体育大会（9月12日実施）



開会式



部活動宣誓



みんなでジャンプ



ダンスパフォーマンス



吹奏楽部



全員リレー



部活動行進



応援合戦



3年生集合写真：体育大会を終えて

## 子どもたちの笑顔のために

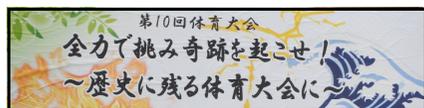
神河中学校PTA会長 足立 政司

平素はPTA活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。  
我が家の義務教育最後の年に初めてPTA活動に参加することになり、会長職に就かせていただいております。これまで、学校、地域の皆さまに大変お世話になっていたにもかかわらず、自分自身、仕事を言い訳に避けていた感があります。今年で最後ということもあり、これまでの恩返しのつもりで今まで関わらなかった未知の分野に飛び込みました。

新年度のスタートはコロナ禍による緊急事態宣言の発令などもあり学校も休校が続き、ご多分に漏れずPTAの各活動も延期、中止、変更を余儀なくされた上半期でした。これまでの日常と大きく異なり、さまざまな制約の中、学校生活を送っている子供たちは目に見えないストレスも抱えていることと想像します。しかし、地域の皆さま、先生方、保護者の皆さまの温かい支えの下、ウィズコロナの中の生活に馴染みつつある様子に少し安堵しております。

9月に開催された体育大会では、観覧を3年生のご家族1名のみという非常に心苦しい決断となったことを心よりお詫び申し上げます。先生方と協議を尽くした結果、体育大会がゴールではなく、その他の行事も開催できること、そして何より友人たちとの楽しい日常の学校生活が継続できるよう配慮することを優先とした感染防止対策であったことをご理解賜りたく存じます。

まだまだ、コロナ禍による影響が続き、今後も予想できない社会変化も起こるかもしれませんが、これからも子どもたちの明るい笑顔が絶えないよう、皆さまと助け合い、支えあいながら、PTA活動を実施していきたいと思っております。今後とも、ご協力賜りますよう、なにとぞ宜しくお願いいたします。



## 体育大会を終えて

神河中学校長 古河 享正

今年の体育大会は、コロナウイルス感染拡大防止対策のため、午前中開催など規模を縮小した形での実施となりました。特に入場制限につきましては、保護者の皆様にご理解ご協力いただいたことに感謝いたします。お陰様で大会は、例年以上に中身の濃いものとなりました。そして、実行委員を中心に「コロナに負けるな！」と生徒主体に取り組んだ今年の体育大会は、3年生にとっても貴重な思い出となったはずです。私も久しぶりに見た運動場一杯の生徒の姿に感動しました。

思い返せば神河中では3月3日から臨時休業が始まりました。この日から、誰もが経験したことのない大きな社会変化への対応を学校でも模索しはじめることになりました。私自身も4月に校長を拝命し、混沌とした中で迎えた学校再開の6月1日は、今となってははるか昔のように感じます。

しかし、3か月に及ぶ休業期間中、学校再開に向けて試行錯誤をする中で私も教職員も様々なことを学んだと思っています。例えば、生徒のいない学校を長期間経験することで「教師の仕事とは何か？」とか、「そもそも学校は何のためにあるのか？」「授業はどうするのか？」といったこれまでじっくりと考えなかった根本的なことです。また、コロナ禍によって顕在化した課題を克服し、「未来の学校」の姿を考える機会となったはずです。

ポスト・コロナの学校は、良い意味で「元の学校」にもどることはないと思っています。



その象徴として、神河中でもICT機器の環境が整備され、生徒一人に一台のタブレットが提供されます。このことにより、紙ベース中心・対面式が当然だった授業スタイルや家庭とのつながり方、学校行事の持ち方にも多様性が生まれ、「新しい学校」の姿へシフトチェンジすることが想像されます。



今後もコロナ対策を念頭に置いての学校生活となり様々な行事が続きます。しかし、例年同様という形で実施できるものは無いと思います。私たち教職員は、日々の活動を大切にしつつ「新しい学校」の姿を模索していきます。そして「安全」はもちろんですが、「安心」を皆様へ届けられるよう取り組んで参りたいと思っています。今後も神河中学校へのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

## コロナ渦の中で思う事

体育補導部長 坂本 昌彦

今年の一月末、コロナウィルスが中国で発生したと報じられてから社会全体が一変しました。自宅待機、リモート会議など働き方も一変しました。子供たちが置かれている状況は特に厳しく、戸惑う事も多かったと思います。

部活動は制限され、大会は縮小での開催。

体育大会も縮小しての開催となりました。

また授業の遅れを取り戻すため夏休みの短縮等、教師の方々は頭の痛い時期が続いていることと思います。

三年生は高校受験という人生の中の大きな節目を控えており、不安な日々を過ごしているでしょう。

このように不安で見通しの立たない時期に入っていますが、悪いことばかりではないと考えるようになりました。

「テレビをつけてもコロナ報道ばかり、経済は悪くなる。収束する気配がないのに何しているの?」と言われるかもしれません。

でも日本、いや世界は確実にコロナ渦の中でも変化していています。例えばソーシャルディスタンス・ウェブでの学校授業・マスクの着用等、これまで経験したことのないシステムがスタンダードになっています。

人類は有史以来、ある武器を持つことにより繁栄してきました。それは環境に適用する能力です。適用するために工夫して社会システムを整備し、技術革新を成し遂げ発展してきました。今回のコロナ渦で今は底にいますが、2～3年以内には復活するでしょう。更なる変革を伴って。

現在中学で学んでいる子供たちの中から、コロナ渦の経験を糧にイノベーションを起こしてくれる人が出てくると確信しています。

今の状況下で、子供が迷うことがたくさんあるでしょう。そのような時こそ親子で会話してヒントを探ることも必要と考えます。

常に置かれている状況を受け入れ、様々なヒントを活用し、先に進んで行くことが今の子供たちに必要と思います。

繰り返しになりますが、コロナ渦で社会は一変しました。この状況下で神河中学校の生徒が変化に対応し、変革を生み出す大人に成長してくれることを願って止みません。

最後に、この経験したことがない状況にもかかわらず、ご尽力してくださっている校長先生・教師の方々・関係者の方々にこの場を借りて謝意を申し上げます。



## 体育大会を経て、今後を担う2年生への期待

2学年主任 三輪 信之

例年とは違ったコロナ渦での体育大会でしたが、「連合応援」は今年度もプログラムへ盛り込まれていました。3年生を中心とした一番生徒たちの主体性あるプログラムの一つです。

練習初日にあたり、「今年の3年生、連合応援のリーダーシップ、下級生への指導は大丈夫かなあ？」と思いながら、3年生の様子を見てみると、「成長したな～。何とか頑張ろうとしているな。」と伝わってくるものがありました。次にふと頭をよぎったのは、「来年、今の2年生はしっかりできるかなあ？」という思いでした。そのような思いから、今年の体育大会は「来年」を意識して2年生としての取り組みを見ていくことにしました。

練習の最中、生徒たちにも「3年生に教えてもらった応援パターンをマスターするだけでなく、今年は3年生がどうリードしてみんなを引っ張っていこうとしているか見よう！」とよく声をかけました。なかなかそまでの意識を持つのは難しかったようですが、「来年は頑張る！」という声を多く耳にしたので安心しました。

よくよく神河中の体育大会を振り返ってみると、やはり「3年生になったら・・・」という自覚は自然と芽生えてくるようで、いい意味で大きく成長した姿を来年の体育大会では見せてくれるのではないかと期待しています。



## 体育大会を通して ～良き伝統を引き継ぐ～

1学年主任 久後 則彦

神河中学校に赴任して2年目を迎えています。昨年は、2年生の学級担任を持たせていただき、担任として神河中の体育大会の練習や本番に参加しました。その時、感心したことがあります。3年生を中心とした実行委員の人たちが自分たちの力で練習を進めていたことです。特に、応援合戦の練習では、3年生が、1、2年生の後輩たちに、自分たちが考えたパフォーマンスを丁寧に優しく、粘り強く教える姿に感動しました。“さすが3年生。しっかりしているな。”と心からそう思いました。同時に、来年、この2年生たちがリーダーとして後輩たちを引っ張っていけるのだろうかと不安になりました。というのは、当時、壮行会や校外学習で実行委員を募集する際に、進んで立候補する生徒が少なく、人数が集まりにくかったからです。しかし、3月の3年生を送る会では、有志パフォーマンスを募集したところ、初めは希望者が少なかったものの、最終的には学年の半分以上の人が有志として参加してくれました。そして、限られた時間の中で練習を積み重ね、精一杯のパフォーマンスを披露してくれました。彼らの成長がとても感じられた瞬間でした。

その直後、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校となり、6月の学校再開までほとんど登校することなく、彼らは3年生になりました。1学期はコロナ感染症の影響でほとんどの行事が中止または延期となり、体育大会は縮小して実施されることになりました。9月1日から体育大会の練習が始まりました。3年生を中心とした実行委員が練習を進めていきます。すぐに応援合戦の練習も始まりました。3年生となった彼らは、1、2年生の後輩たちに丁寧に優しく、粘り強くダンスの振り付けを教えていました。“今年の3年生もやるなあ。さすが3年生。”と今年も思いました。少し不安に思っていた学年でしたが、そんな心配は全くの取り越し苦労でした。様々な行事に取り組むことによって、生徒たちはいろいろなことを体験し、大きく成長していきます。『行事を通して大きく成長していく』これが神河中学校の伝統なのでしょう。今の2年生たちも神河中の伝統を引き継

ぎ、来年の体育大会を立派に盛り上げてくれることでしょう。そして、再来年の体育大会は、今の1年生たちが・・・。



## 体育大会を終えて…



◎中学校生活、最後の体育大会。私は体育部だったので準備もいろいろしました。応援リーダーにもなり、本当に毎日大変でした。他の子たちに頼りすぎた所も少しあったけど、その分違う



ところで頑張ったりもしました。全員リレー、部活動リレーで足を引っ張った感があったので、それがちょっと悔しかったです。でも、みんなで力を合わすことができたこと、一緒に盛り上がったこと、全部が楽しかったです。いつもより短い時間だったけど、今までで一番楽しめました。みんなの前に立って「自分が引っ張っていかなくてはならない」ということを体験できたことで、その大変さが分かったし、そうしている人に感謝しました。そんなことを学ぶことができた体育大会でした。やり終えた時の達成感が幸せでした。毎日頑張っただけで本当によかったです。いい思い出になりました。次は合唱コンクール。みんな頑張りたいです。

◎団長として先頭に立って体育大会をしたことは、すごく良い経験になりました。例年とは違う体育大会になったとはいえ、今までとは違う気持ちで取り組みました。午前中だけとは思えないくらい、すごく充実した体育大会でした。もっと長く、違うこともしたいと思いましたが、結果として楽しくできたので、生徒会の人たちにも感謝しています。全員リレーはどのクラスも新記録が出て、すごく良い勝負だったと思いました。でも、団長として、3年生として優勝できなかったのは悔しかったです。校長先生から最後に言われた時は泣きかけそうになったし、それ以上に自分でいうのも何やけど、良く頑張ったと思える体育大会でした。もう一回できるのなら、したいくらいです。みんな笑顔で終われたので、とても幸せでした。この体育大会で、これから苦しいことなどがあっても乗り越えられると思います。楽しかったです。

◎今年の体育大会はコロナの影響で種目が前の年と比べて減ったけれど、個人的には3年間の中で一番楽しかった体育大会で、すごく思い出に残りました。「今年是可以のかな」と心配もしていたけれど、無事終わることができたので良かったです。練習から本番までクラスみんなで協力できて、より団結力が強くなったと思いました。一番心に残っているのは全員リレーです。3組全員では走れなかったけれど、みんなでたくさん話し合っ、バトンをつなぐことができました。走っているときも、「○○ちゃんガンバレ！」などの応援も聞こえてきて、すごくうれしかったです。オールブルーの良かったところは、負けていてもすごく前向きで「次、ガンバロ！」「楽しもう！」というワードが応援リーダーさんなどの口から出てきていたので、すごくうれしかったですし、ずっとテンションが上がっていました。全員ジャンプでも、本番ではあまりと跳べなかったけれど、楽しめたので良かったです。連合の応援のとき、最初はダンスが難しく、覚えることが多かったけれど、本番では成功したので、よかったなと思いました。オールレッドやオールイエローのダンスもすごく良かったです。来年は高校生で中学校の体育大会には出れないけれど、後輩たちには今年みたいに良い体育大会ができるようにしてほしいです。



## 2年生

◎今年も去年と違って時間が短く、競技も減ったけれど、すごく楽しかったです。連合では、応援合戦は2位、他のジャンプやリレーはどちらも3位で、結果も3位でした。残念だったけれど、楽しかったから良かったです。クラスでは、ジャンプは練習よりもたくさん跳べて1位、リレーも1位で優勝でき、すごく嬉しかったです。

吹奏楽部では、初めのファンファーレを担当しました。今年は先輩方がおられず不安でしたが、しっかり吹けたと思います。部行進は、先輩方との本当に最後となる演奏で、部員としてたくさんの仕事もしたので達成感がありました。来年も頑張りたいです。

◎私はオールレッドだったので、応援合戦、リレー、大縄、全てが1位でした。3年生の、優勝したいという気持ちが発揮されたのだと思います。学級の全員リレーでは、いろいろなハプニングがあって、すごく面白くて楽しかったです。部活動行進では、先輩方の行進がとてまっかこよく、テニスが本当に大好きという自信にあふれていました。

体育大会の練習での3年生は、成功させようと全力で、キラキラしていました。みんなをまとめようとしているのが、すごくかっこよかったです。私も来年、行事に全力で参加できる3年生になりたいです。今年の体育大会、すごく楽しかったです。

◎練習で一番難しかったのは応援合戦のダンスです。3年生の応援リーダーが必死で教えてくださいましたが、最初の方は説明されていることがわかりませんでした。でも、ずっと踊っていると、楽しいダンスで、結果も1位だったので、あきらめないでよかったです。私だと、こんな大人数に指導なんてできないかもしれないと思いました。

やっぱり一番楽しかったのは、全員リレーです。予行ではびっくりするくらいうまくいき、仲間の力はすごいと思いました。本番では少しの差で勝てなかったけれど、悔しいというより、最後まで全員でバトンをつなげることができて嬉しかったです。

毎日暑一中、「疲れた」とずっと言っていたけれど、あのととき、練習を一生懸命やっていたよかったです。声援は少なかったかもしれないけれど、最高に盛り上がりました。来年は私たちが最高の体育大会にできるよう、頑張りたいです。

◎今年も午前中だけで、昨年とは違うことが多くありましたが、とても盛り上がって楽しかったです。予行では1位だったところが、本番では2位や3位になるなどもありました。僕たちのクラスは、予行では1位だったけれど、本番は4位だったので、とても悔しかったです。

連合の応援合戦は、どこの連合よりも声が出ていたし、動きも大きくてきれいでした。連合ジャンプは予行よりも多く跳べたので、嬉しかったです。

これまでは3年生についていけただけだったけれど、来年は自分たちが3年生になり、下級生を引っ張っていかなければいけません。今年よりも10倍、100倍、楽しくて心に残る体育大会にできるよう、中心となって頑張りたいです。



## 1年生



◎自分たちのリレーが終わって、2・3年生の先輩方のリレーの時、予行もだったけど、私たち1年1組が一番応援で盛り上げることができたんじゃないかなと思いました。全員が全力で、オールイエローの先輩を応援して、先輩に声は恐らく届いていたと思います。自分たちの演技だけでなく、応援も一生懸命で、ちょっとうるさすぎたかもしれないけど、明るく良い雰囲気をつくれていたので、良かったんじゃないかなと思います。



◎コロナウイルスの影響で短縮になってしまったけれど、一人ひとりが笑顔で全力だった体育大会だと思いました。自分の競技だけでなく、他の人の競技の応援も全力でできていたので良かったと思いました。リレーも声を出して、バトンをつなげたので良かったです。連合では優勝したので、この団結力をこれからの生活に生かしていきたいです。今年は3年生たちの指示に従うだけだったけど、自分たちが2年生や3年生になったと時には、引っ張れるように頑張りたいです。大縄跳びやリレーで少し失敗もあったけれど、みんなのおかげで一生懸命がんばれたと思いました。

◎一番思い出に残ったのは、初めは全然全員リレーで他のクラスに勝てなかったのに、最後の最後で2組に勝てたことです。みんなで一丸となって応援できたので良かったです。みんなでジャンプでは、1分で12回・・・(笑)。新記録の14回は更新できなかったけど、声を出して楽しめたので良かったです。生徒会ダンスは本気で取り組めたので、すごく楽しかったし、いろいろな子と接することができました。

## 文化・研修部のみなさん

### 体育大会を終えて

小林 哲也

「例年通り」とはいきませんが、体育大会が終わりました。今年の体育大会は何かと「コロナ禍」を理由に子供達は辛い思いをしたと思います。

でも、実行委員・生徒会・先生方が中心となって素晴らしい体育大会になったのではないかと感じています。

人間一人では、何も出来ません。周りの協力があって初めて行動に移せます。特に今年は今まで誰も経験をした事のない「想定外」な事ばかりだったのではないのでしょうか。だから、みんなで知恵を出し合い、話し合い、意見をぶつけながら体育大会は実現出来たと思います。これは、皆さんの財産になるでしょう。

親としては、子供の頑張る姿を見たい！と思ってしまいます。しかし、観覧に制限があり、リアルタイムで観覧出来なかった親御さんもいらっしゃると思います。そんな中でも、子供達は一生懸命に競技に集中していました。子供達は親が思っている以上に成長していると思います。そして、今回の体育大会を成功出来たので更に成長したことでしょう。

体育大会の内容は例年通りではありませんでしたが、体育大会の会場は「例年通り」の子供達の笑顔が見られ、歓声を聞く事が出来た空間でした。



## 新型コロナウイルスについて

村上 悦子

令和2年になって、世界が変わりました。まるで今まで平和だった時代を裏返すかのようになり、みんなが困ってしまいました。世界でも、日本でも、こんな時代になってしまったことに胸を痛めます。私に何ができるのだろうかと思ってしまいます。もう悲しくて、学校や仕事の仕方変わった年でした。これ以上、世界の人々がコロナにかからないことを望みます。お年寄りや子供たちも気をつけてほしいです。それと、今年は河川の災害ともあって、異常でした。夏の天気もです。人は、一人では生きてはいけないので、みんなまで助け合って、平和な時のように戻ってほしいと願います。

中学校の生活についても、入学式では2年生と3年生が参加できなかったし、4月、5月は自粛の生活でした。子供たちもストレスを抱えていたと思います。これから先も、子供たちは不安な様子が続くかもしれないけど、病気とかにならないように願います。



## コロナ禍での最後の部活

岡本 みずほ

4月7日に新学期を迎えてすぐに学校が休校になり、5月31日まで殆ど家におり、部活で使用する道具を持って帰っていなかった息子は、外に出ることなく自宅です〜と過ごしていました。

6月から学校が始まり、新1年生も入部しました。やっと部活が始まってすぐに、1年生の指導で自分の練習時間があまりなく、郡大会も中播大会も無くなり、部活の意味があるのかと言ってきたことがありました。

少しやる気を無くしていた所に、3年生だけの独自大会を開催して頂けるようになり、すごく喜んでいました。それからはモチベーションもあがり、練習に前向きに取り組むようになりました。

中播大会は3年生だけだったので、いつもの会場も広く感じました。女子と男子の日程が違っていたので、会場の卓球台の台数はいつもの配置だったと思うのですが、大きな声を出してはいけないので、粛々と試合は進んで行きました。残念ながら2回戦敗退でしたが、よく頑張りました。

コロナ禍の中、インターハイや甲子園など、高校生の大きな大会が中止になり、本当に悔しい思いをされている方が沢山いらっしゃる中、3年生だけの独自大会を開催してくださいありがとうございました。

今年は、コロナの影響で体育大会の規模の縮小、修学旅行も2泊3日ではなく1泊2日でユニバーサルスタジオと高野山。先生方も色々子供たちの為に考えて下さり、コロナ禍の中でも思い出作りが出来ることに感謝です。

今年は何をするにも我慢しなくてはいけなくて、いつも通りが出来ないことがこんなに難しい事なのかと実感した年でした。なれないマスクの着用、熱中症対策、インフルエンザ対策とこれからもコロナと付き合っていく中で課題も沢山出てくると思いますが、1つ1つ乗り越えたいと思います。



寄稿してくださった皆さま、ご協力ありがとうございました。